

アートラボ 2025 第Ⅱ期 金箱 淳一

長野県立美術館 本館 2 階の「アートラボ」は視覚以外の感覚も使った鑑賞が可能な「ラボラトリー（実験室）」となることを目指しています。

2025 年 7 月 12 日（土）～ 10 月 5 日（日）長野県立美術館 本館 2 階 アートラボ



金箱 淳一 《音鈴—信濃》 2021 年

アートラボ 2025 年度の第Ⅱ期展覧会では、金箱 淳一を紹介します。

「楽器インターフェース（※）」の研究者でもある金箱は、視覚や聴覚に障がいのある人もそうでない人も一緒に遊ぶ／感じるができるよう、音や光を振動に変えて伝える「共遊楽器」の開発をおこなっています。聴覚だけでなく、それ以外のさまざまな感覚をつかって、音を楽しんでみてください。

（※）楽器インターフェースとは、楽器と人をつなぐ方法やそれに必要なコミュニケーションツールなどを指します。

▶ 展示作品 金箱 淳一 《音鈴—信濃》 2021 年

素材：基盤、振動スピーカー、センサ、LED、マイコン、フィルム、PET シート

《音鈴—信濃》は、長野県が実施した「新美術館みんなのアートプロジェクト」にて制作された作品（2019 年依頼 2021 年作品完成）。短冊形のインターフェースには基板が備えられており、風をあてることで音と光が発生する。発生した音や光は、隣り合う基板に波紋のようにひろがり、鑑賞者が音につつまれる空間をデザインしている。

▶作家略歴

■金箱淳一 KANEBAKO Junichi

1984 年長野県浅科村（現：佐久市）生まれ。楽器インターフェース研究者、Haptic Designer、神戸芸術工科大学准教授。筑波大学大学院人間総合科学研究科で博士（感性科学）を取得後、障がいの有無にかかわらず、共に音楽を楽しめる「共遊楽器」（作家による造語）を研究・開発している。2018 年 Asia Digital Art Award エンターテインメント部門優秀賞受賞。東京 2020 パラリンピック閉会式演出協力、他クライアントワークも多数手がけている。



金箱淳一（撮影：守屋友樹）

■原田智弘 HARADA Tomohiro

1970 年福岡県生まれ。作編曲家、音楽プロデューサー、サウンドデザイナー。様々なアーティストコラボレーション、邦楽器ソフトウェア楽器開発メーカーを運営。生活と人と社会をつなぐ音環境の創造を目指して、公共空間のサウンドデザインのほか、サウンドインスタレーション作品制作もおこなっている。

【開催概要】

会 期：2025 年 7 月 12 日（土）－10 月 5 日（日）

会 場：長野県立美術館 本館 2 階 アートラボ

開館時間：9:00-17:00

観 覧 料：無料

休 館 日：毎週水曜日

主 催：長野県、長野県立美術館

※諸般の事情により、会期などに変更が生じる場合があります。
最新情報については美術館ホームページをご覧ください。



金箱淳一《音鈴－信濃》2021 年 photo by Shinichi Kanai

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp